

黒岩祐治

明日を語るふ

2000 2/7 ~ 2/13

京都小学生殺人事件

目次

[100] 京都の事件について思う事	3
[101] 私はですね。	4
[102] 不安と恐怖の結末	5
[104] 何かで傷ついて、成績が落ちたのです。	5
[105] 京都の事件について	6
[117] ひきこもりの子供達の不安	8

[100] 京都の事件について思う事

投稿者：刈田 暁

投稿日：2000年2月7日<月>03時00分

京都の事件は、容疑者と思われてる人が、捜査員の聴取（説得）から逃走し、飛び降り自殺する最悪な事態となってしまいました。

京都の府警のコメントには、疑問が残ります。「問題点はなかったと認識している」このコメントについては、付近の住民の安全性のことは、まったくみられません。場合によっては、第2の事件がおきうることもあったのです。ましてや、おきたのは、土曜日。週末人が沢山、そこらへんを歩いたりしてると思うのです。聴取する場所、日どり、捜査のやり方など考えてやってくれればと

また、「逃げたのは突然の事」だといっておられたようですが、年齢が20代前半ということもあったので、逃げてもおかしくはないなと後から感じました。いちかばちかで逃げることもありうると思うのです。

さて、今回の事件。いえ、最近の低年齢の犯罪には、一部、テレビゲームや、ホラー映画、ドラマが影響してるんじゃないかという話しが飛びまわってます。まったくないとは言いきれません。

突発性のストレスが引きがねになったのではないかと考えられます。そうなると悪いことばかり発想するようになってたり、悪いまねをしてみよう殺人や暴力などは、お遊びととらえてしまう。悪いことだと、まったくとはいいきれないが、認識されてないそうなるのだと思います。

一部の原因は、人付き合いが少ない、ひきこもり これが、突発性ストレスと かさなってるかも。原因としては、突然、切れる、暴れ出すとか

捜査員は、説得したら、うけとめてくれると思ってた、矢先、突然、逃げたから パニックになったのだらうと思います。

最悪の場合も想定して、どう対応すればよいのか考えてく必要があると思われま

す。

[101]私はですね。

投稿者：松山真一

投稿日：2000年2月7日<月>04時13分

いつもこういう凶悪犯罪者やカルト教団の信者などのプロフィールや性格なんかを報道されると、似てるなぁと自分でも思うし、親族とかにも言われるんですよ。

今度の犯人、真一に似てるなど、まあ冗談半分ですが。

でも私は今日も人を殺すことも、女性の後をつけまわすことも、カルト教団に入っとうさんくさいオッサンを崇めることもしていません。
まあ今後も大丈夫でしょう。

私は幸いにも最近友人も多く、色々面白いことが出来ています。

私は決して理解ある環境に恵まれたとも思っていませんが、そこまで追い詰められることもなかったのか、それとも親の教育が良かったのかは分かりません(ただうちの両親は叱り方とか下手でした^^;;;)

ホラーやポルノを見ることでそういう欲求を抑えることが出来る人は確実にいます。逆にそれを見ることでそういう欲求が高まる人もいます。

人それぞれと言ってしまうえば、こういう議論は無になってしまう事はわかりませんが、結局はいきつくところはそこではないでしょうか？

やる奴はやる、やらない奴はやらないと思う。

さて話しが変わりますが、ここの掲示板は本当に面白いです。

吉岡さんとS L Tさんの議論はレベルが高い、この問題に関しては、日本でも最高レベルの議論をしているんじゃないですか？ 特にS L Tさんは私賠償派の方で、これだけきちんと理論的な人を私はじめて知りました。

吉岡さんもS L Tさんもこれからもよろしくお願いします。

あとはじめて全ての黒岩さんのコラムを読ませていただきました。
是非ともスーパーニュース長く続けてください。あと特集も関西で見れるようになればとつくづく思います。

いつもHPを見て、ああこの特集見たかったと思う日を過ごしています。

[102]不安と恐怖の結末

投稿者：赤沼侃史

投稿日：2000年2月7日<月>08時32分

分裂病や鬱病などの多くの精神疾患、多くの青少年犯罪、新興宗教などの盲信、これらは不安の結末ではないかと、考えています。その過程で心的外傷を受けたと思われる過程がほとんどの例で見られます。その心的外傷が癒される過程が見られていません。脳の構造を考えるなら、不安と恐怖が続くと、人は精神症状を出したり、暴力行為に出たり、何かに逃避することが、あり得ることが分かります。

子供時代の不安と恐怖の原因は、親から加えられる物、社会特に学校から加えられる物があります。子供がその子供なりに成長して行かれない現代では、子供に思わぬ所で不安と恐怖を与えます。その不安と恐怖が癒せない限り、いろいろと社会に不適應を起こす子供が、いろいろな事件を起こす子供が、出てくると思います。

ここで注意しなくてはならないことがあります。親や社会が子供の問題行動を防ぐためにあらかじめ子供に働きかけることが、かえって子供の不安や恐怖を高めることが多いという事実です。それは親や大人が子供の本当の心を知ることが大変に難しいからです。親や大人が子供の心を掴んだつもりでいても、それは親や大人がそう思っているだけで、実際の子供の思っていること（子供の本心は子供の発する言葉とは違うことが多い）とはかけ離れていることが多いからです。

[104]何かで傷ついて、成績が落ちたのです。

投稿者：赤沼侃史

投稿日：2000年2月8日<火>18時51分

今日のスーパーニュースで、また専門家が専門家らしからぬコメントを言いました。京都の自殺した犯人があのような反抗に走った原因として、大学受験に失敗をしたことをあげていました。ところが私たち登校拒否の対応をしている者から見れば、既に高校に入った時点で、勉強ができないような、大きな心の傷のうずきを見ることができます。どうして彼が大学受験をしたのか、それは単に親のためにしたのかどうか分かりませんが、小学校、中学校をきわめて良い成績でやり抜く一方で、心の傷を深くしていき、高校になって耐えきれなくなったのだと、分析されます。それを理解できなかった親を含めて周りの大人の対応に対して、自分の世界に閉じこもって、自分なりの論理を構築していきました。この過程は多くの青少年犯罪に見られています。

[105] 京都の事件について

投稿者：松山真一

投稿日：2000年2月9日<水>04時24分

今回の京都の事件で、一部マスコミがてるくはのるの解説にあたって、**ドラクエ原因説**という飛躍した論調があり呆れてみていました。

フジテレビのワイドショーでは、これをきっかけにテレビゲームに年齢制限などを含めた規制をするべきという、すさまじい飛躍した論調まで飛び出して、ビックリしてしまいました(こういう所に現在のマスメディアの、自分たちの言論の自由は大事だけど、他のメディアの言論の自由を何とも思わないファシズムを感じてしまいます、フジだけじゃなく、いやフジはまだまともな方とは思っています)。

しかしその日のニュースステーションではこのような見解が紹介されていました。以下は番組からの抜粋です。

キーワードは「21」。犯人の年齢が21歳、犯行日も12月21日。

- 1 「て」から、50音順に21文字進む 「ら」
- 2 「る」は、漢字の「反」を裏から見たものとする。
- 3 「く」から、50音順の「反対」に、21文字進む(つまり、戻る) 「む」
- 4 「は」から、50音順の「反対」に、21文字進む(つまり、戻る) 「か」
- 5 「の」から、50音順の「反対」に、21文字進む(つまり、戻る) 「お」
- 6 最後に「る」があるので、反対に読むと・・・「お」「か」「む」「ら」

と、いうことでした。

犯人の年齢がキーワードでは、犯人が特定されるまでは解説のしようがないものだったわけですが、これで東スポならびに、この「てるくはのる = ドラクエ説」を大きく取り上げて、ドラクエが原因のような報道をしたマスコミ諸君は猛省をして頂けるのでしょうか？

ドラクエが原因だなんて、ドラクエやったことないんだろー！！ と、強く言いたい気分です。

いや別にゲームやれと言ってるわけじゃないんですよ、ただ取り上げる素材に対して、きちんとした取材をするというのはマスコミの大原則じゃないんですか？とりあえず本当にドラゴンクエストというゲームに、そういう犯罪を誘発させるところがあるのかなんてきちんとした取材がされているとはとても思えないです。

『とりあえずゲームソフトを悪者にすれば、茶の間の奥様方は喜ぶ』ぐらいの感覚にどうしても移ってしまいます。「リセット世代」なんていう括りだけではなく、もしやるんだったらきちんとした批判でないと、ゲーム世代の総マスコミ離れなんていう状況になってもおかしくないのではないのでしょうか？

とりあえず謝罪ぐらいはすべきじゃないでしょうか？

マスコミ各位はエニックスやアーマープロジェクトに、特にフジテレビってドラクエのアニメやってませんでしたか？

そのフジテレビが一番声を大にして、ドラクエ批判をしていたのには、ちょっと苦笑しましたが、そんなにドラクエが悪いというならば、もうすぐ始まるであろうドラゴンクエストのCM断れよと言いたい。

いや本当に昨日の「とくダネ」の内容にはそれぐらい腹が立ちました。

[117]ひきこもりの子供達の不安

投稿者：赤沼侃史

投稿日：2000年2月13日<日>08時51分

柏崎、京都の事件における犯人の生い立ちが報道されています。現在引きこもりの子供達が、そのニュースを読んで不安になっています。自分たちもあのような犯罪を将来起こす可能性を心配しているのです。

あの犯人達と似た経過の子供達は私の担当している子供達の中にもたくさんいます。しかし、私は確信を持って、子供達に「君たちは絶対にあのようににはならないよ。だって、おかあさんが君たちの心の傷をしっかりと見つめていて、君たちとお母さん達としっかりと心が繋がっているではないか」と説明しています。子供達は親との心のつながりを感じていますから、それで十分に納得しています。

ニュースでも親の盲信や溺愛を指摘している人がいます。しかし京都や柏崎の事件の親は盲信や溺愛の様に見えますが、本当はそうではありません。子供の暴力に耐えかねて、単に子供の暴力を回避するために子供の要求を受け入れていました。親と子供の間には、こどもからの反発と、親からの苦しさからの意識の上での逃避、無視と、行動の上での事なかれの姿です。私たちがこのような子供の対応をするとき、子供の要求にほぼ全て従うように親に働きかけます。ただし、それは子供の心の傷を意識しながらです。子供が苦しいことを理解して、親は子供の心の傷が癒えるまで、あなたを守り続けるというサインを送るためです。子供のこころを受け取ったといことを具体的に示すためです。親は子供の目を見ています。それに対して柏崎や京都の事件では、親は子供に背中を見せていたのだと思います。

私たちの対応とあの事件と外見は全く似た対応をとります。大きく違うのは、私たちの対応だと子供のこころを見つめ、子供と向かい合っているのに対して、あの事件では親は逃げているところだと思います。